

会 議 結 果 報 告 書

令和8年3月24日

会議の名称	令和7年度 第1回舞鶴市文化財保存活用地域計画懇話会	
種別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開催日時	令和8年2月25日（水）10時00分から11時30分	
開催場所	舞鶴市役所別館6階 大会議室	
出席者	<委員> 菱田会長、伊庭委員、小谷委員、澁谷委員、日向委員、松尾委員、吉岡委員、吉岡委員、八木委員、京都府文化財保護課石崎課長、竹原観光振興課長、後企画政策課長（代理：水島企画政策課主幹）、日下部学校教育課長 <事務局> 福田部長他7名	
議題	1 開 会 2 議 題 (1) 令和6年度の実施状況について (2) 中期報告および計画見直しについて	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	
傍聴者数	0 名	
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化振興課 TEL （ 0773 ） 66 - 1019
-----	---

令和7年度第1回 舞鶴市文化財保存活用地域計画懇話会 会議録

日時 令和8年2月25日（水）10時00分から

場所：舞鶴市役所別館6階 大会議室

出席：（委員）菱田会長、伊庭委員、小谷委員、澁谷委員、日向委員【オンライン】、松尾委員、吉岡委員、吉岡委員、八木委員【オンライン】、京都府文化財保護課石崎課長【オンライン】、竹原観光振興課長、後企画政策課長（代理：水島企画政策課主幹）、日下部学校教育課長

（事務局）生涯学習部福田部長、森次長、文化振興課横川課長、神村担当課長、矢内、尾崎、末満

欠席：上杉委員、上羽建設部次長

傍聴人数：0名

会議内容：

- 1 福田部長開会あいさつ
- 2 協議事項
 - （1）令和6年度の実施状況について
 - （2）中期報告および計画見直しについて

（事務局説明）【資料3】【資料4】

（委員からの主な意見等）

- （会長）観光振興課から、事務局の説明に漏れはなかったか。
→（観光振興課）漏れはなかった。まだまだ手を付けていない観光資源はあるので、みなさんに光を当ててもらうことは続けていただきたい。磨き上げ、活用の部分で頑張っていく。
- （委員）短期目標のNo.6にある「東舞鶴《今×昔》マップづくり」について、令和6年度終了時点でMAPが完成すると聞いていたが、現在の進捗はどうか。
→（事務局）もう少しフィールドワークなどを行う必要があり、公開まで至っていない。令和7年度末に印刷予定。
- （会長）短期目標の取り組みがない事業としてNo.4「史跡整備に向けた取り組みの実施」を挙げているが、令和7年度に京都府立大学のフィールド調査で白杉古墳を取り上げ、地域の人にヒアリング、現地見学、地域の人とワークショップを実施した。史跡整備に向けた検討を進めた段階といえるため、令和7年度の実績にしてはいかがか。

- （委員）（事業No. 47に関連して）観光協会でクルーズ船を運営している。軍港4市の事業者が集まり、旧軍港4市クルーズ事業者協議会を作った。今後連携を進めていく。
- （会長）No. 57「街道沿いの道標等の把握調査」については今日欠席の委員からもご意見があったと思うが、京都府でも「歴史の道」の調査を行っていると同っている。舞鶴の調査状況はいかがか。

→（京都府文化財保護課）舞鶴街道については現在、報告書を作成中。宮津から舞鶴については次年度以降になる。

- （委員）中期目標の中で取り組みのない事業として、No. 43「舞鶴市民遺産制度（仮称）」の創設、No. 59「伝統文化の担い手育成」とある。自治連の立場からすると、自治会離れが顕著で、地域の繋がりや「自治会＝助け合い」意識の希薄さが目立つ。特に無形文化財の後継に関連するが、地域の文化を通して仲間意識を再認識することが大事だと思う。今後どういうふうに取り組むを進めていくのか。

→（事務局）No. 43の「市民遺産制度（仮称）」とは、市民が大事に思っているものをハードルの低い手続きで登録する制度。近隣では京丹後市が運用している。一方、現行の舞鶴市の文化財補助制度も比較的ハードルの低い運用をしており、例えば地域のお祭りの用具補助も行っている。現行の制度でも市民遺産制度に繋がるため、新規制度の創設に至っていない。今後有効であれば、制度創設に向けて本格的に検討していく。

No. 59「伝統文化の担い手育成」については現在取り組み中。コロナ禍で停滞した時期もあるが、動画の作成などを進めてきた。取り組みがないのはNo. 62「伝統文化等の復活」について。西舞鶴の城下町における芸屋台での子ども歌舞伎や、瀬崎の人形浄瑠璃のように、指定されているが途絶えたものを指す。復活させるのはハードルが高いが、残り5年の計画の中で、引き続き検討していく。

→（会長）京都府立大学のフィールドワークで竹屋町の人と話した。町々で行われている行事を伝えていくのは大きな使命。地域コミュニティの維持のために大事な行事を、市民遺産として伝えていくのが大事。

（事務局説明）【計画見直しについて】

- （会長）新・舞鶴市史編さん事業について伺いたい。

→（委員）市史編さん事業に携わる者としてお答えする。この事業は当初、既刊の市史刊行から30年が経ったことと、平成時代の舞鶴の歴史が抜けているということで発足した。昭和に刊行された市史が非常によくできているが、それはそれとして、刊行後に新しく分かったことも含め、みんなが見やすいカラー版で作るもの。令和5年度から令和10年度の10年計画で検討中。内容は古いものから新しいものまで扱う。特に西の城下町と東の軍港を取り扱う別巻を設ける。

40人くらいの先生に関わっていただいております、悉皆調査で新しいものも見つかっている。ホームページで公開している市史編さんだよりをご覧ください。

→（会長）アウトプットの強化。No. 5「舞鶴歴史文化遺産叢書（仮称）」の刊行の格上げでも、新しく位置づけでも良いと思う。